

ただいま
活動中

海蔵しぜんクラブ

自然が教室、体験が教科書。

受け皿の重み……

学校週5日制がはじまってはや三カ月…。地域や家庭に返された子ども達は、どのようにすごしているのでしょうか。大人達は仕事に追われ、地域でのつながりが薄れている今、受け皿として子ども達とどう関わっていったらよいのか一地域にとって難しい課題になりそうです。そんな中、今回紹介する「海蔵しぜんクラブ」は、6年前から“世話人”を務める地域の“おじいちゃん”方が中心となって、月1回栗拾いや鳥の観察など、自然に親しむ活動を子ども達と続けています。

先輩からの贈り物……

私が訪れた5月25日は、海蔵川の自然観察をしました。観察場所の末広橋上流に着くと、参加した16名の子ども達は、網とバケツを手にさっそく生き物探しに川へ入りました。川の水は、30～40センチと浅く、水の上から小さな魚が泳いでいるのがよく見えました。「ザリガニゲット!」「アメンボゲット!」など、そここで子ども達の歓声があがり、みんな夢中になって川の中の小さな生き物を探しています。世話人の方たちも次々と川に入り、なれた手つきで生き物採取をはじめました。最初はやみくもに網で魚を追っていた子ども達も、見よう見真似で魚のいそうなところに狙いを定め、網使いのコツもつかんでいったようです。



地域環境フォーラム開催を機に、平成9年「こどもエコクラブ」として発足。自然の中での遊びとおし子ども達が自然との共生を学ぶ場づくりをめざす。

対象 : 小学生・中学生
期間 : 1ヵ年(4月～3月)
活動日 : 月1回(学校のない日)
参加費 : 年間2000円(活動により別途徴収有)
連絡先 : 海蔵地区市民センター
☎31-3284

バケツはハエやカワニナ・スジエビなど、小さな魚や生き物でいっぱいになっていきました。そして自分達の戦利品を見せ合ったり、一番大きなザリガニとサワガニを対戦させたりして、あっという間に時間が過ぎていきました。「今も昔も子どもは一緒ですね。自然の中にいると何もなくても遊びはつきません。世話人といっても、私らは子どもが大きくなっただけで心は同じです。ゲーム遊びにはついていけませんが、こういった遊びなら先輩としていろいろ経験を積んできたから、楽しみながらいっしょに遊べるんです。仕事が忙しくて自分の子どもとはあまり遊んでいなかったから、その代わりかなあ」。この活動に対する気持ちをお聞きしたところ、会の代表嶋津義止さんはじめ、世話人の方達が楽しそうに話してくださいました。



この後、子ども達は地区センターで、捕まえた生き物を水槽に放し、生き物の名前や水質検査の結果など今日のまとめをしました。「自然とのふれあいが少ない今の子ども達に、自然の大切さ・厳しさをどう伝えていくか『親切は不親切』の言葉のように、ルールを敷いて教え込んでいくより、私達の遊び方を見せることで、子ども達が自分で何かをつかむ糸口になればと思っています」。この会の顧問館増男さんの言葉どおり、子ども達はバケツに入った小さな魚といっしょに、大先輩から伝授された、形はないけれど大切なお土産を持って、元気に帰っていきました。



肩の力をスットぬいたおじいちゃん達の子どもの接し方が、お父さんお母さんとはまた一味違った良さを感じました。とにかく、とっても楽しくカッコよかったです。